

鑛山七浦坑ヲ以テ該品製造ノ原始歟ト愚考ス因テ爰ニ叢誌ノ餘白ヲ
 借り聊カ右ニ關係スル大方ニ益セントス

○長濱敦賀間鉄道建築景況(前卷ノ續) 千 種 基

橋梁桁架設

該年間ハ諸橋共大抵松丸太ノ假桁ヲ架シ多クノ鳥居形ヲ設ケ川底ヨ
 リ支フルモノナリ

三哩七十五鎖四哩十八鎖半四哩貳十八鎖半ノ高橋ニ於テハ兼テス
 リンコールスノ處ニ石ノプロツプ三箇ツ、チ殘シ之ニ枕木ヲ置キ夫
 ヨリ斜メニ富士山形ノストラツトヲ本桁ノ下部ニ立テ全スパンヲ三
 箇ニ分ツテ支フ

假桁ハ丸太ナレハ「レールリブル」ヲ作ル爲メ板切レ等ノ物ヲ多ク横ス
 リ「パー」ノ底部ニ挾ミ且ツ「ストラツト」ノ用材モ尽ク天然ノ丸太ナレ
 ハ總テ其續手モ牢固ナラサルガ故ニ瀛車或ハ列車ノ通過スル際挾ミ

物壓縮セラレ通過ノ後チ其木位置ヨリ離ルルヲ以テ時々板切レノ緩
ルムコアリ且ツ瀛車ニ駕シテ通過スル時ハ上下ニ搖動スルノ感覺ア
リ故ニ常ニ注意ヲ要セサルヲ得ス加之若シ運轉方等ニモ注意セスシ
テ橋上ヲ通過セシムル時ハ不慮ノ患害ヲ醸生スルモ計リ難シ此ノ如
キ桁ハ都合次第一日モ早ク之ヲ止メ本桁ノ架設セラレシコトヲ希望ス
ルナリ

假桁架設ノ入費左ノ如シ

高橋假桁架設入費

三哩七十五鎖三十尺橋梁

物品 百二十一圓一錢四厘

職工 七十六圓二十一錢九厘

合計金百九十七圓二十三錢三厘

四哩十八鎖半三十尺橋梁

物品 六十三圓十錢九厘

職工 七十三圓二十錢三厘

合計百三十六圓三十一錢二厘

四哩二十八鎖半橋梁

物品 五十二圓八十六錢

職工 六十四圓九十五錢五厘

合計百十七圓八十一錢五厘

疋田川橋梁二十呎二聯假桁

憑臺ヨリ憑臺ニ達スヘキ長キ松丸太ヲ架シ多クノ鳥居形ヲ川底ヨリ立テ支ヘタルモノナリ尤モ川底ニ横枕木ヲ置キ川流上下ヨリ斜メニ鳥居柱ヲ建タリコレ廣キ支礎ヲ得ンガ爲メナリ

物品 三十一圓二錢五厘

職工 四十二圓九錢九厘

合計七十三圓十二錢四厘

絹掛川橋梁四十尺三聯假桁

此橋ハ該部分中最モ大ニシテ且假桁架設ニ困難ヲ極メシモノナリ其
 要點ハ「レールリブル」高キニヨリ高キ支柱ヲ用ヒサルヲ得ス又川底大
 礫ノ石多ク混合セルヲ以テ打杭ヲナスコトヲ得ス故ニ「トレストル」ヲ
 用ヒサルヲ得ス何トナレハ土地本ト憑柱間四十尺ニ架スベキ木材ニ
 乏ク假令之ヲ得ルモ甚々高價ナリ且ツ建築ノ時ハ嚴寒降雪中ナルヲ
 以テ一層ノ困難ヲ加フ此假桁架設ハ現今京都在勤島田延武君ノ日夜
 精神ヲ凝シテ執業セラレシモノナレバ定メテ同君ノ報告アルベキト
 存シココニ贅セズ

物品 百五十八圓四十八錢五厘

職工 貳百七十八圓三十四錢五厘

合計四百三十六圓八十三錢

ペルナントウニ

該年間レールヲ敷キタル長サハ一哩貳十七鎖ニシテ全部分ノレール敷列ハ竣功セリ

レールハフツトボトムレールニシテ松栗或ハ檜ノスリーパーヲ用ヒテ敷キタル單線ナリレールノ敷キ方タルヤ「レール」方ヲ敷部ニ分チ第一番組ハレールノ續手及ヒ中央ニノミスリーパーヲ加ヘ「ヒユツシユプレート」ヲ懸ケ「スパイキ」ヲ假打チシテ引延シ第貳番組ハ續手及ヒ中央ノスリーパーヲ本留ニナシ又他ノ處ニスリーパーヲ加ヘテ一本置毎ニ本留シテ進行ス第四番組ハビーター及ヒスコープ等ノ器具ヲ用ヒテスリーパーノ下底ヲ堅固ニシレールノ凸凹等ヲ直シ徐行シテ瀛車ノ輾轉スルニ適セシム而シテレール其他諸要具ヲ瀛車ニテ運送シ其通行ノ未タ安全ナラザル處ニ至レハ小低車ヲ用ヒテ運送セリ又第五番組等ノ續手アレハ「レール」ヲ總テ「スリーパー」ニ打チ付ケ「バラスチング」

ヲ始ム

(以下次號)

○本會記事

主記 野邊地久記

常議員會 七月五日午後第六時開會出席員七名議定ノ件左ノ如シ

第一 松本莊一郎君及ヒ野邊地久記君ノ正員タルヲ認可ス(紹介人 原田虎三君桑原政君)

第二 客員山尾庸三君ニ正員ヲラソクヲ請フ事

第三 來ル八月ハ會員多ク東京ニ住セサルヲ以テ通常會休會ノ事
散會後原田中村兩君直ニ山尾君方ヘ往キ常議員會ノ決議ヲ以テ本會
ノ正員ヲラソクヲ請タリシニ同君異議ナク之ヲ承諾セラレタリ

編輯會 七月七日午後第六時開會出席員五名叢誌第九號ヲ印刷ニ付
シ第十號目次ヲ預定ス

通常會 七月八日午後第一時工部大學校博物場廣堂ニ於テ開ク出席
員正員廿名準員七名會長原田虎三君本月五日常議員會ノ決議ヲ報ス